

【資料1】

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価（27事業）

（１）市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成		シート頁
①－ア	学校への芸術家等派遣事業	P 1
②－イ	市民文化活動助成（補助金）	P 2
③－ア	久留米市芸術奨励賞	P 3
③－ア	青木繁記念大賞ビエンナーレ	P 4
③－イ	文化芸術コーディネーター養成	P 5
（２）久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造		
①－イ	多様な文化芸術活動への積極的な支援【担当：シティプラザ】	P 6
②－ア	音楽によるまちづくりの推進	P 7
③－ア	青木繁旧居の管理・運営	P 8
③－ア	歴史的建造物保存整備事業【担当：文化財保護課】	P 9
③－ア	坂本繁二郎生家活用事業【担当：文化財保護課】	P 1 0
③－ア	有馬記念館活用事業【担当：文化財保護課】	P 1 1
③－ウ	歴史ルートづくり事業【担当：文化財保護課】	P 1 2
④－ア	文化芸術事業を活用した賑わい創出事業【担当：シティプラザ】	P 1 3
④－イ	久留米市未来の地域リーダー育成プログラム事業（文化芸術リーダー育成事業）【担当：学校教育課】	P 1 4
⑤－ア	（公財）久留米文化振興会事業（補助金）	P 1 5
（３）文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進		
①－ア	久留米シティプラザ 自主事業【担当：シティプラザ】	P 1 6
①－ア	久留米シティプラザ 提携事業【担当：シティプラザ】	P 1 7
①－ウ	久留米シティプラザ 魅力発信事業【担当：シティプラザ】	P 1 8
②－ア	美術館事業（コレクション形成）	P 1 9
②－イ	美術館事業（展覧会、教育普及事業）	P 2 0
②－ウ	美術館事業（石橋文化センター全体のミュージアム化）	P 2 1
②－エ	美術館事業（寄付やボランティア制度など）	P 2 2
③－ウ	そよ風ホール活用事業【担当：田主丸総合支所文化スポーツ課】	P 2 3
③－エ	インガットホール活用事業【担当：城島総合支所文化スポーツ課】	P 2 4
（４）効果的かつ積極的な情報の収集と発信		
①－ア	芸術家等に関する情報収集	P 2 5
②－イ	久留米シティプラザ 普及啓発事業【担当：シティプラザ】	P 2 6
③－ア	様々な媒体を活用した情報発信	P 2 7

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	学校への芸術家等派遣事業				担当課	文化振興課	
計画の柱	(1) 市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成						
取組みの内容	①文化芸術に関する子どもの創造的体験の充実						
取組み項目	ア.学校などでの子どもたちの文化芸術体験機会の提供						
① 目標達成状況・ 得られた成果	令和2年～3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施校数が減ったが（令和2年度は実施校数を縮減して鑑賞型事業を中心に実施、令和3年度は感染が拡大した2月に8校が中止）、令和4～5年度は実施予定校全てにおいて実施できた。 平成20年度より実施している本事業は、実施に関わる文化芸術コーディネーターの協力もあり、市内の子どもたちが学校でプロの芸術家と出会い、文化芸術体験ができる貴重な機会を創出する事業として定着してきている。また、地元のアーティストにとっても、子どもたちと交流する機会となっている。						
② アンケート等による 分析	毎年度、実施に関わるコーディネーターが実施報告書を作成しており、学校の先生からは「見るのと実際にやるのは大違いで、実際に体験すると色々な発見があり、子どもたちが心から楽しんでいた」、派遣された芸術家からは「子どもたちが熱心に見てくれ、やりがいのある時間だった。楽しく演奏できた」などの声が記載されている。普段の授業では体験できないことを、子どもたちに学ばせることができるため、実施校では本事業が高く評価されている。 令和6年度においては、初めて文化芸術に関する子どもたちへのアンケートを実施し、鑑賞後の感想や今後の希望を聞き取る予定。						
③ 入場者・参加者 総数	【実施校数】 ※市内の小学校44校、中学校17校、特別支援学校1校へ実施希望を調査後、決定している 令和2年度 20校（コロナウイルス感染拡大のため、実施校数を縮減して実施） 令和3年度 17校（コロナウイルス感染拡大のため、2月に8校が中止） 令和4年度 25校 令和5年度 32校						
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	3,332	2,998	2,848	3,731	3,731	
	決算	2,445	2,523	2,847	3,731		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	事業の実施対象が、市立小学校、中学校、特別支援学校であるため、広報も各学校への毎年度の事業の実施希望調査に限られている。 今後は、実施する文化芸術の分野（①演劇、②美術、③伝統音楽、④国際民族音楽、⑤音楽、⑥舞踊、⑦伝統芸能、⑧生活文化）ごとの芸術家を紹介するなど、広く同事業を知ってもらうための広報を検討していく予定。						
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	毎年度の実施予定校数に対する、実績（実施校数）で判定した。 また、子どもの感性を育むという目的が、学校からのアンケート等で達成できていると判断した。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	本事業に携わる文化芸術コーディネーターになりたいと思う市民が増えるきっかけとするためにも、学校向けだけではなく、市民向けの広報のあり方も検討する必要がある（前年度に学校に派遣された芸術家を、市HPに公開・紹介するような仕組みを検討するなど）。 事業の内容については、例年馬頭琴（特に小学校2年生クラス）を希望する学校が多いため、他の分野への関心を高めつつ、各ジャンルの実施数とのバランスを取っていく必要がある。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	市民文化活動助成（補助金）	担当課	文化振興課				
計画の柱	（1）市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成						
取組みの内容	②あらゆる市民の文化芸術活動への支援						
取組み項目	イ.市の補助金、後援などによる活動支援						
① 目標達成状況・ 得られた成果	久留米市内を活動の拠点とし、市民文化の振興に大きく寄与している事業に対し必要な財政的支援を継続的に行った。 〈対象事業：12事業〉 ①久留米市総合美術展、②久留米ちくご大歌舞伎、③謡曲大会④子ども劇場、⑤芸能大会、⑥西日本久留米王位戦（将棋）⑦市民オーケストラ演奏会、⑧吹奏楽連盟演奏会⑨ジュニア青木繁展、⑩久留米連合文化会事業、⑪旧4町文化協会の文化事業（4団体）⑫一般コミュニティ助成（毎年度1～3団体申請） また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年度は4事業が中止、令和3、4年度は2事業が中止、令和5年度は1事業が中止となったが、それ以外の事業では感染対策を講じながら計画どおり実施された。						
② アンケート等による 分析	毎年度、補助金の申請および実績報告の書類審査において、各事業の実施状況について確認しているほか、事業を実施する団体へヒアリングを行っている。						
③ 入場者・参加者 総数	各事業は、市内のホールや美術館1階などにおいて、入場無料または低料金で実施されており、市民が主体となって実施する文化事業としては集客規模も大きく、市民が文化芸術に気軽に触れる機会を創出している。 〈補助対象事業の実施場所〉 ①久留米市総合美術展：久留米市美術館1階 ②久留米ちくご大歌舞伎：久留米シティプラザ ザ・グランドホール ③謡曲大会：久留米シティプラザ 久留米座 ※無料 ④子ども劇場：（活動停止中） ⑤芸能大会：石橋文化ホール ※無料 ⑥西日本久留米王位戦（将棋）：久留米シティプラザ 大会議室 ※無料 ⑦市民オーケストラ演奏会：久留米シティプラザ ザ・グランドホール ※無料 ⑧吹奏楽連盟演奏会（くめ音楽祭、ニューイヤー・バンド・フェスティバル／無料）：石橋文化ホール ⑨ジュニア青木繁展：えーるピア久留米展示スペース ※無料 ⑩久留米連合文化会事業：けしけし祭の実施、久留米市美術館1階での会員展等 ⑪旧4町文化協会の文化事業（4団体）：そよ風ホール、インガットホール等 ⑫一般コミュニティ助成（毎年度1～3団体申請）：市内祭りでの太鼓演奏に活用						
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	（千円）
	予算	19,635	19,635	14,635	17,135	14,040	
	決算	5,846	7,566	13,635	17,004		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	全市的な規模や継続した内容によって行われる団体等の活動や事業が対象となるため、広く補助団体を募集することはしていない。 また、市HPの「文化芸術活動への支援事業」ページにおいては、国や公益財団法人等が実施している、文化芸術活動への支援事業も随時案内している。						
総合評価 （いずれかに○）	Ⓐ 目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	毎年度の実施事業予定数に対する、実績（実施事業数）で判定した。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	これまで、コロナウイルス感染拡大の影響を除けば、計画通りに事業を実施し、目的は達成できている。広報面においても、各事業の告知を文化振興課が窓口となり、広報久留米や市HP、音楽ポータルサイト「くるおん」等へ掲載しており、今後も事業の広報面でも支援をしていく。 文化団体によっては、今後、実施メンバーの高齢化等で、継続が難しくなることなどが考えられるが、実施団体と情報共有しながら、実施のために支援を継続していく。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	久留米市芸術奨励賞				担当課	文化振興課	
計画の柱	(1) 市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成						
取り組みの内容	③ 文化芸術に関わる人材の育成と活用						
取り組み項目	ア.芸術家の発掘・育成支援						
① 目標達成状況・ 得られた成果	昭和48年の創設時より、文化芸術分野において、将来を嘱望される人へ久留米市芸術奨励賞（賞金10万円）を贈呈しており、令和6年度までの授与実績は、194人・9団体となった。 過去の受賞者は、市の文化事業への出演や、後進の指導にあたるなど活躍を広げる人が多く、同賞の目的である「市民の芸術文化に対する意欲の高揚を図り、もって市の芸術文化の発展に資する」ことへ着実に繋がっている。						
② アンケート等による 分析	受賞候補者の推薦書には毎回、受賞を励みにさらに活動を展開することが期待される旨が記載されている。また、選考委員会でも、同賞の歴史と意義にふさわしい候補者の選出をしており、同賞は市の重要な文化表彰の一つとして周知されている。 また、過去5年間の受賞者に対する活動支援として、今後の活動予定やコメントを市HPに掲載している。						
③ 入場者・参加者 総数	令和6年度までの同賞授与の実績は、194人・9団体であり、これまで毎年度1～5組の受賞者を決定している。 11月3日（文化の日）の表彰式には、受賞者、選考委員、過去の受賞者等が招待されている（令和6年度の久留米座への来場者数：約200名）。						
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	832	835	835	835	837	
	決算	540	757	771	526		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	受賞者には、11月3日（文化の日）の市表彰式において、表彰状、記念品料（10万円）が贈呈され、広報久留米12月号に受賞者名・分野が掲載されている。 また、市HPには過去の受賞者一覧及び近年の受賞者の活動状況も掲載している。						
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	毎年1名以上の受賞者を決定し、受賞者本人および周辺の文化芸術活動への意欲の向上、奨励に寄与した。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	令和4年度より、同賞の「将来を嘱望される者」の趣旨に鑑み、受賞対象者を満60歳未満に見直したところであり、今後も推薦の応募状況を見ながら、若手の推薦が増えるよう、検討していく。特に10代～20代の推薦が増えるよう、学校や大学への広報も引き続き検討していく。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	青木繁記念大賞ビエンナーレ（※R5年度で終了）	担当課	文化振興課																																																				
計画の柱	（1）市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成																																																						
取組みの内容	③ 文化芸術に関わる人材の育成と活用																																																						
取組み項目	ア.芸術家の発掘・育成支援																																																						
① 目標達成状況・ 得られた成果	【実施の経緯】 青木繁記念大賞公募展（H4～H20/久留米市・石橋美術館主催）を17回開催後、平成21年に、西日本地区の新人画家の登竜門として開催実績があった西日本美術展（S43～H19/西日本新聞社主催）と統合し、第1回青木繁記念大賞西日本美術展（H21～H29/実行委員会・久留米市・西日本新聞社主催）がスタートした。 以後、ビエンナーレ形式で継続し、第6回（H30公募、H31展覧会）からは、青木繁記念大賞ビエンナーレ（H30～/実行委員会・久留米市主催）と名称変更して開催した後、事業開始から30年経ったことを区切りとして、令和4年度の公募と令和5年度の展覧会開催をもって最終回となった。 【これまでの成果】 ・全国規模の絵画公募展として美術界で一定の評価を得、青木繁の名を冠した事業を約30年間実施したことにより、久留米市の先達・青木繁の画業顕彰と「美術のまち久留米」の都市イメージを全国に発信した。 ・過去約30年間に、延べ11,441人（16,750点）が出品し、1,821人が入賞・入選した。受賞後に全国的に活躍する作家もあり、美術を志す作家に挑戦の場を提供し、広く画家の育成と美術振興に貢献した。																																																						
② アンケート等による分析	最終回となった7回展では、大賞の受賞者から「栄誉ある賞をいただき、うれしさと同時に背筋が伸びる思い」とコメントがあった他、審査員（画家・美術評論家5名）からは「力作ぞろいで同展の効果の大きさを感じた」などの声があった。長年にわたって開催してきた同展が、美術を志す人に認知され、励みとなっていたことが伺え、同展が開催目的の役割を果たしてきたことが伺えた。 また、受賞作を展示した展覧会会場では、作品の人気投票をおこない、投票数が最も多かった作品に「オーディエンス賞」が贈られた。鑑賞者からは「色々な作品を見ることが出来て面白かった」などの声が寄せられた。																																																						
③ 入場者・参加者 総数	<table><tr><td></td><td>第1回</td><td>第2回</td><td>第3回</td><td>第4回</td><td>第5回</td><td>第6回</td><td>第7回</td></tr><tr><td></td><td>H21年度</td><td>H22年度</td><td>H23年度</td><td>H24年度</td><td>H25年度</td><td>R1年度</td><td>R5年度</td></tr><tr><td>出品数（点）</td><td>1,187</td><td>907</td><td>773</td><td>720</td><td>588</td><td>554</td><td>443</td></tr><tr><td>出品者数（人）</td><td>719</td><td>633</td><td>566</td><td>531</td><td>435</td><td>400</td><td>318</td></tr><tr><td>入場者数（人）</td><td>3,387</td><td>4,066</td><td>3,556</td><td>3,006</td><td>4,792</td><td>3,572</td><td>3,976</td></tr><tr><td>会期</td><td>7/4-26</td><td>7/2-31</td><td>7/6-8/4</td><td>7/4-8/2</td><td>7/1-30</td><td>6/29-7/28</td><td>7/1-30</td></tr></table>								第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	R1年度	R5年度	出品数（点）	1,187	907	773	720	588	554	443	出品者数（人）	719	633	566	531	435	400	318	入場者数（人）	3,387	4,066	3,556	3,006	4,792	3,572	3,976	会期	7/4-26	7/2-31	7/6-8/4	7/4-8/2	7/1-30	6/29-7/28	7/1-30
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回																																																
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	R1年度	R5年度																																																
出品数（点）	1,187	907	773	720	588	554	443																																																
出品者数（人）	719	633	566	531	435	400	318																																																
入場者数（人）	3,387	4,066	3,556	3,006	4,792	3,572	3,976																																																
会期	7/4-26	7/2-31	7/6-8/4	7/4-8/2	7/1-30	6/29-7/28	7/1-30																																																
④ その他の実績	公募展の関連イベントとして、受賞者によるギャラリートークやコンサート、人気投票による「オーディエンス賞」を設けるなど、市民により同展に親しんでもらう取り組みも実施した。																																																						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	（千円）																																																
	予算	600	600	3,600	4,000	－	※R2,R3はコロナの為延期																																																
	決算	600	600	3,600	4,000	－																																																	
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	実行委員会において「青木繁記念大賞ビエンナーレ」のHPを開設し、作品募集や過去受賞作品の画像を掲載し（R5年度末でHPは閉鎖）たほか、チラシ・ポスター、公募展のガイドブック、新聞等の紙面においても広く作品募集および展覧会への来場を呼びかけた。 また、受賞作品や受賞者のコメントは、広報久留米や西日本新聞社の記事に取り上げられ、広く市民に周知された。																																																						
総合評価 （いずれかに○）	Ⓐ：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい																																																						
総合評価の基準	公募展開始から30年が経ち、長年にわたるこれまでの実績から、同展の成果と果たすべき役割に一定の区切りがついたと判断した。																																																						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	・青木繁の顕彰と若手作家の育成支援の目的を引き継ぐ、新たな展開の検討																																																						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	文化芸術コーディネーター養成	担当課	文化振興課																																	
計画の柱	(1) 市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成																																			
取組みの内容	③ 文化芸術に関わる人材の育成と活用																																			
取組み項目	イ.文化芸術事業の推進を支える人材の育成																																			
① 目標達成状況・得られた成果	「文化芸術コーディネーター養成事業」は、「アウトリーチ」（芸術家派遣事業）や「ワークショップ」（体験型講座）などの活動において、芸術家や指導者と市民や地域をつなぐパイプ役としての人材を「文化芸術コーディネーター」と位置付け、その養成を目的として平成19年度から実施している。 また、講座内容は、専門家による講義や他市視察など、新たにコーディネーターを目指す人やコーディネーター経験者の、コーディネート力を高める内容で企画している。 これまでの成果として、受講者のうちコーディネータとして活動を始めた人は、主に「学校への芸術家等派遣事業」において、学校やアーティストとの調整（企画実施、日程調整等）の役割を中心となって担っている。																																			
② アンケート等による分析																																				
③ 入場者・参加者総数	(単位：人) <table><tr><td></td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>養成事業参加者</td><td>7</td><td>6</td><td>－</td><td>25</td><td>16</td><td>17</td><td>－</td><td>－</td><td>15</td><td>5</td></tr><tr><td>芸術家派遣事業に参加したコーディネーター</td><td>7</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>16</td><td>17</td><td>10</td><td>8</td><td>6</td><td>5</td></tr></table>				H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	養成事業参加者	7	6	－	25	16	17	－	－	15	5	芸術家派遣事業に参加したコーディネーター	7	5	5	5	16	17	10	8	6	5
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																										
養成事業参加者	7	6	－	25	16	17	－	－	15	5																										
芸術家派遣事業に参加したコーディネーター	7	5	5	5	16	17	10	8	6	5																										
④ その他の実績																																				
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)																													
	予算	168	150	141	141	196	※R2,R3はコロナの為中止																													
	決算	0	0	141	141																															
⑥ 広報の実績及び効果・課題	養成講座募集チラシを作成し、行政施設及び学校等に配布したほか、市HP・SNSにおいても広報した。																																			
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい																																			
総合評価の基準	現在、「学校への芸術家等派遣事業」で、学校とアーティストの調整、実施プログラムの作成、授業当日の運営などを行うコーディネータは、養成講座受講者からスタートした人ばかりであり、養成の人数としてはまだ不足感があるが、一定の成果があった。																																			
⑦ 今後の改善点、次年度への課題	・「芸術家等派遣事業」の参加希望校が増加傾向にあることから、新たなコーディネーターの確保や、コーディネーターとしての更なる能力の向上が必要な状況。 ・コーディネーターとして活動できるまでには、多くの経験が必要であることから、コーディネーターの育成には時間がかかる。 ・コロナ禍を経て養成講座受講者のうち、「芸術家等派遣事業」で活動できる人の休会・退会が多くなり、現在活動しているのが5名程度となっている。また、平日に活動できる人材も限られている。新コーディネーターを如何にして確保し、育成・定着させていくのが課題。																																			

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	多様な文化芸術活動への積極的な支援				担当	久留米シティプラザ																									
計画の柱	(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造																														
取組みの内容	① 文化芸術団体等との連携による多様な文化芸術活動の推進																														
取組み項目	イ.多様な文化芸術活動への積極的な支援																														
① 目標達成状況・ 得られた成果	【目的】 文学や演劇、美術や音楽など多様な分野での市民や文化芸術団体等との連携・協力あるいは活動の支援により、市の文化芸術の裾野を広げ、文化芸術の活性化や担い手の継承に務める。 【達成状況・成果】 ○シティプラザは、市民の文化芸術活動の発表の場を提供した。コロナ後(令和4年度以降)の市民活動は回復基調にあり、発表会では団体等や分野の多様化が進んだ。 ・「みんなのステージ発表会」(R4年度まで「芸能フェスティバル」) ...市民・団体の文化芸術発表会 ・「久留米市民オーケストラ」 ...定期演奏会 ・「久留米ちくご大歌舞伎」 ...50回を超える歴史を持つ、市民が演じる本格的な歌舞伎公演 コロナ後のR5年度に再開し、36名の市民等が参加。中・高生など若い世代も継続して出演 ・「久留米第九」 ...公募によるオーケストラ・合唱団等が参加する第九の定期演奏会 R5年度に開催が可能になり、R6年度は出演者、来場者（チケット購入者）とも大幅増加																														
② アンケート等による 分析	○みんなのステージ発表会(R5) では、来場・出演とも70代が最多、来場者の周辺店舗利用は約5割 (1)来場者 70代 40%、市民80%、周辺利用55%、知人・出演者から知った50% (2)出場者 70代 29%、会社員等42%、知人・出演者から知った63%、満足度99%																														
③ 入場者・参加者 総数	<table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td></tr><tr><td>みんなのステージ発表会</td><td>(中止)</td><td>(中止)</td><td>1,224人</td><td>2,500人</td></tr><tr><td>久留米市民オーケストラ</td><td>(中止)</td><td>(中止)</td><td>1,056人</td><td>1,100人</td></tr><tr><td>久留米ちくご大歌舞伎</td><td>(中止)</td><td>(中止)</td><td>(中止)</td><td>985人</td></tr><tr><td>久留米第九</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>975人</td></tr></table>						R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	みんなのステージ発表会	(中止)	(中止)	1,224人	2,500人	久留米市民オーケストラ	(中止)	(中止)	1,056人	1,100人	久留米ちくご大歌舞伎	(中止)	(中止)	(中止)	985人	久留米第九	—	—	—	975人	※鑑賞者数 (出演者含まず)
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																											
みんなのステージ発表会	(中止)	(中止)	1,224人	2,500人																											
久留米市民オーケストラ	(中止)	(中止)	1,056人	1,100人																											
久留米ちくご大歌舞伎	(中止)	(中止)	(中止)	985人																											
久留米第九	—	—	—	975人																											
④ その他の実績	「みんなのステージ発表会」は、新規参加促進のためR5年度に見直しを行い開催 (開催日程を2日間へ拡充、部門を廃止（分野不問へ）、個人も可、事業名の変更)																														
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (千円)																									
	予算	2,200	2,200	2,271	4,000	3,168																									
	決算	565	1,332	2,271	2,749																										
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	「みんなのステージ発表会」 WEB、情報誌（2/20、3/20）、ドリームスFM（3/7、3/14、5/16） 新聞（5/19西日本、5/22西日本）、雑誌（4/20「ぐらんざ」）他 「久留米市民オーケストラ」「久留米ちくご大歌舞伎」「久留米第九」 WEB、イベントスケジュール 他																														
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい																														
総合評価の基準	○出演者アンケート（R5）の満足度（「大変満足／まあ満足」）が、95%以上を獲得 ※「みんなのステージ発表会」99%																														
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	各事業への来場促進に向けた周知の強化																														

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	音楽によるまちづくりの推進	担当	文化振興課				
計画の柱	（２）久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造						
取組みの内容	② 音楽の力を活かしたまちづくりの推進						
取組み項目	ア.音楽によるまちづくりの推進						
① 目標達成状況・得られた成果	目的：音楽の持つ力で人とまちを元気にするため、音楽イベントの実施や音楽アーティストの育成・支援の取り組みを展開し、まちに賑わいを創出するとともに、市の魅力向上につなげる。 状況：①～④の事業を実施し、市民の演奏機会や鑑賞機会の創出につながっている。 ①若手ミュージシャン育成プロジェクト（TEEN'S MUSIC PROJECT、くるめライブチャレンジ） ②市民参加型の音楽イベントの実施（くるめ街かど音楽祭→R5年度からKURUME MUSIC FES.） ③邦楽振興事業 ④久留米ゆかりの音楽事業への支援（市民合唱団による第九演奏会への支援） ※R2年度は①～④のすべての音楽事業が中止 ※R3年度は②街かど音楽祭、④第九演奏会を中止						
② アンケート等による分析	各事業の実施時にアンケートを実施しており、出演者、来場者とも「大変満足した」「いい体験ができた」「楽しかった」など満足度の高い回答をもらっている。						
③ 入場者・参加者総数	①くるめライブチャレンジ（H26～R5） （予選）2～9日間開催で、来場者数が約1,200～2,600人（出場者数21～50組） ※R3年度は、ライブチャレンジの審査を無観客としてオンライン配信 TEEN'S MUSIC PROJECT（R4～R5）：2日～5日開催で、25～58名の応募 （決勝）1日間開催で、来場者数が約450～1,300人（Cボックス・久留米座） ②KURUME MUSIC FESS（R5）：1日間開催で、来場者数が約8,000人（東町公園・六角堂広場） ③邦楽振興事業（H28～R5）：1日開催で、来場者数が約200～500人（善導寺または文化ホール） ※令和3年度は入場制限をした上でライブ配信 ④「久留米第九演奏会」への支援：R5年度は約800人（ザ・グランドホール）						
④ その他の実績	①令和4年度から、若い世代の音楽人材育成のため、音楽ワークショップTRRN'S MUSIC PROJECT（R5までは、ジュニアミュージックレクチャー）を開始した。 ②令和元年度からコロナ禍で中止が続いていた「くるめ街かど音楽祭」を令和4年度に見直し、コロナ禍でも実施できる手法として、特定の来場者による有料コンサートを実施した。令和5年度にはコロナ後の市民の音楽演奏機会や鑑賞機会を創出するため、市中心部の東町公園で観覧無料の野外音楽フェス「KURUME MUSIC FES.2024」を実施した。令和6年度からは、事業の企画運営を実行委員会形式とし、民間や地域の音楽人材の主導による取組みへ移行中。						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	（千円）
	予算	14,905	13,579	9,259	12,285	12,285	
	決算	1,000	5,178	9,059	12,285		
⑥ 広報の実績及び効果・課題	久留米の音楽専用ポータルサイト「くるおん」において、事業の告知や出演アーティストの紹介をした他、市HPやSNSにおいて、タイムリーな情報を発信した。コロナ禍のR3年度においては、ライブチャレンジの予選をオンラインで開催・配信により実施し、それ以降は、アーカイブとして、YouTubeで演奏の様子を動画配信している。						
総合評価 （いずれかに○）	A：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	「音楽によるまちづくり」という目的に沿った事業企画を、毎年度見直しながら実施している。音楽事業を通して人の交流や賑わいの効果はすぐに把握しづらいため、今後も検討を重ね継続していく必要がある。						
⑦ 今後の改善点、次年度への課題	・まちづくりの視点における音楽イベントのあり方の検討、効果的な広報など ・企画の円滑な実施、若手の人材育成・発掘、出場者の増加やシティープロモーションに繋げる取り組みの検討 ・まちづくりの視点をもった、音楽事業そのものの担い手の育成（実行委員会）						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	青木繁旧居の管理・運営	担当	文化振興課																																
計画の柱	(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造																																		
取組みの内容	③文化財や伝統文化の保存・継承とその活用による郷土愛の醸成及び地域の活性化																																		
取組み項目	ア.文化財などの保存・継承																																		
① 目標達成状況・得られた成果	【目的】久留米が生んだ近代洋画家・青木繁が多感な少年期を過ごした建物として、美術史的、文化的価値の高い青木繁旧居を、かけがえのない地域の財産として保存するとともに、市の文化振興と地域振興のために有効に活用する。 【状況】平成15年3月に「青木繁旧居」として開館後、平成18年4月から地域住民で構成される任意団体「青木繁旧居保存会」を指定管理者とし、同団体により主体的な管理運営がなされている。 【成果】開館後約22年が経ち、地域の財産として順調に活用され、市民や全国の青木繁ファンにも旧居の存在が認知されるようになった。																																		
② アンケート等による分析	・青木繁旧居保存会からの月次報告書で、来館者の声や来館者数を把握している。「心落ち着く空間で、色々と説明いただき青木繁のことがよく理解できました。ありがとうございました。」「知り合いに紹介したくて再度伺いました。いつ来ても青木繁旧居は素晴らしいと思います。」など、毎回、満足度の高い声が寄せられている。 ・青木繁旧居保存会による施設の魅力向上のための取組みや、来館者に対する丁寧な説明・対応により、市内外からのリピーターが増えていることがうかがえる。																																		
③ 入場者・参加者総数	<table><tr><td>年度</td><td>30年度</td><td>1年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>合計(人)</td></tr><tr><td>入館者数(人)</td><td>6,842</td><td>4,050</td><td>1,491</td><td>2,041</td><td>2,445</td><td>2,708</td><td>19,577</td></tr><tr><td>入館者数(一月平均)</td><td>570</td><td>338</td><td>124</td><td>170</td><td>204</td><td>226</td><td>272</td></tr><tr><td>入館者数(一日平均)</td><td>23</td><td>14</td><td>5</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>11</td></tr></table>			年度	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	合計(人)	入館者数(人)	6,842	4,050	1,491	2,041	2,445	2,708	19,577	入館者数(一月平均)	570	338	124	170	204	226	272	入館者数(一日平均)	23	14	5	7	8	9	11
年度	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	合計(人)																												
入館者数(人)	6,842	4,050	1,491	2,041	2,445	2,708	19,577																												
入館者数(一月平均)	570	338	124	170	204	226	272																												
入館者数(一日平均)	23	14	5	7	8	9	11																												
④ その他の実績	同じ校区の篠山小学校や、けしけし祭(3月に青木繁の歌碑を囲む祭典)ゆかりの山本小学校が、毎年青木繁を知るため団体見学に来ており、学校の総合学習(久留米ゆかりの画家)に活用されている。																																		
⑤ 予算・決算	<table><tr><td></td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td><td>(千円)</td></tr><tr><td>予算</td><td>2,552</td><td>2,552</td><td>2,552</td><td>2,702</td><td>2,702</td><td rowspan="2">※R2,3年度はコロナのため自主事業を中止、休館あり</td></tr><tr><td>決算</td><td>2,431</td><td>2,552</td><td>2,552</td><td>2,702</td><td></td></tr></table>				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)	予算	2,552	2,552	2,552	2,702	2,702	※R2,3年度はコロナのため自主事業を中止、休館あり	決算	2,431	2,552	2,552	2,702													
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)																													
予算	2,552	2,552	2,552	2,702	2,702	※R2,3年度はコロナのため自主事業を中止、休館あり																													
決算	2,431	2,552	2,552	2,702																															
⑥ 広報の実績及び効果・課題	・夏のお茶会、春の華道展などの自主事業について、近隣ヘチラシ・ポスター等で広報している。 ・毎年4月の「久留米つつじマーチ」のコースのチェックポイントとして連携するなど、市内の観光スポットの一つとしても度々広報されている。 ・久留米市美術館の展覧会にあわせ、スタンプラリーやミニコンサートを実施するなど、展覧会の広報と連携を図った(「生誕140年 ふたつの旅 青木繁・坂本繁二郎」R4.10月～R5.3月)。 ・市の出前講座のメニューに「青木繁の生涯と青木繁旧居」を継続して掲出しており、学校の郷土の先人の学習等で利用されている。																																		
総合評価 (いずれかに○)	A: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい																																		
総合評価の基準	開館22年の現在では、当初目標を達成していると見られる。																																		
⑦ 今後の改善点、次年度への課題	・石橋文化センターや久留米市美術館、坂本繁二郎生家とのさらなる事業連携の検討 ・今後の管理体制維持のための、人材や修繕費用の確保																																		

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	歴史的建造物保存整備事業			担当課	文化財保護課		
計画の柱	(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造						
取組みの内容	③文化財や伝統文化の保存・継承とその活用による郷土愛の醸成及び地域の活性化						
取組み項目	ア.文化財などの保存・継承						
① 目標達成状況・ 得られた成果	市内に所在する重要な建造物の調査を継続的に実施してきており、その成果として、令和2年度の「久留米大学本館」、令和3年度の「梅林寺ティーハウス」、令和4年度の「篠山神社本殿・拝殿・中門・透塀」、令和5年度の「旧國武合名会社綿糸部店舗及び倉庫」「旧國武合名会社倉庫」が有形文化財建造物として国の登録を受けた。その結果、法的に建造物の保存が図られるとともに、これまで国の指定・登録文化財が少なかった久留米市の中心部に新たに国登録文化財が生まれ、観光等への活用の可能性が開けた。 また、市指定の大善寺旧庫裡、雪の聖母聖堂、県指定の須佐能袁神社、国指定の善導寺の修理の事業化及び、補助金等による支援を行い、市内の重要な建造物の保存に取り組んだ。更に令和4年度からは、3ヶ年計画で須佐能袁神社の調査を進めており、将来的な保存活用につなげていく。						
② アンケート等による分析	事業の性質上アンケート等は実施していないが、近年国登録文化財化が実現した建造物は、(公財)久留米観光コンベンション国際交流協会が主催する、「まち旅」に「歩いて楽しむ久留米の名建築めぐり」としてメニュー化され、実施各回とも募集即満員となる好評を得ている。						
③ 入場者・参加者 総数							
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	3,048	2,933	2,535	2,561	5,845	
	決算	3,347	1,910	2,527	3,022		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	国文化財登録等の情報については、マスコミにニュースリリースするとともに、市HPにて紹介した。						
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい						
総合評価の基準	市内の重要な建造物について積極的に調査を行い、新たな文化財登録を実現するなど、建造物の保存・活用への取組みを総合的に判断した						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	今後も、市内に所在する重要な歴史的建造物について、継続的に調査を行い歴史的価値を明確にすることによって、国・県・市指定や国登録など保存に法的な根拠を持たせるとともに、地域資源としての価値を向上し、活用につなげて行く。また、久留米市は全国的に著名な建築家である菊竹清訓の出身地であり、菊竹建築も多く残されていることから、それらを保存し、活用していくための取組みも必要となる。 効果的な保存と活用のためには、継続的な調査や修理の予算の確保が最大の課題である。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	坂本繁二郎生家活用事業				担当課	文化財保護課
計画の柱	（２）久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造					
取組みの内容	③文化財や伝統文化の保存・継承とその活用による郷土愛の醸成及び地域の活性化					
取組み項目	ア.文化財などの保存・継承					
① 目標達成状況・ 得られた成果	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けて、イベント等、建物公開など活用事業の主たる部分を中止する必要が生じたが、令和３年度後半以降文化財の活用としての建物の公開を徐々に再開し、令和５年度からは、活用イベントも再開、「こども茶会」や「中秋落語寄席 お月見ナイト」、「餅つき大会」などを実施した。令和６年度についても建物の公開とともに「七夕まつり」や「こども茶会」、「中秋落語寄席 お月見ナイト」、「餅つき大会」などを実施し、坂本繁二郎生家を地域資源として地域住民と連携した活用を行うことができた。					
② アンケート等による分析						
③ 入場者・参加者 総数	入館者数	令和３年度	2,428名	貸室利用	令和３年度	7件
		令和４年度	4,268名		令和４年度	25件
		令和５年度	4,030名		令和５年度	19件
		令和６年度	2,402名(R6.11末時点)		令和６年度	10件(R6.11末時点)
④ その他の実績	「こども茶会」などの案内に市LINEを積極的に活用することで、多くの市民に参加してもらっている。					
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	予算	390	322	322	322	287
	決算	103	111	10	170	
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	イベント等については、市広報やSNS、チラシなどにより広報を行った。					
総合評価 (いずれかに○)	① 目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい					
総合評価の基準	コロナ対策で落ち込んだ入館者数も回復し、イベント等の開催も順調に推進できている。					
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	外国人観光客の来館も増えつつあるが、英語での対応が十分でないなど課題がある。英語表記の解説を増やすなどして、外国人観光客にも対応した施設を目指す。 貸室利用をもっと増やしていく必要がある。					

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	有馬記念館活用事業				担当課	文化財保護課	
計画の柱	(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造						
取組みの内容	③文化財や伝統文化の保存・継承とその活用による郷土愛の醸成及び地域の活性化						
取組み項目	ア.文化財などの保存・継承						
① 目標達成状況・ 得られた成果	新型コロナ感染拡大の影響により、令和3年度は一時的に休館する必要が生じたが、(公財)有馬記念館保存会では「企画展」「平常展」の関連事業も含めた内容充実を図りつつ、継続して取り組み、久留米市や有馬家の歴史・文化の発信や地域の魅力向上につなげた。また、収蔵資料についても整理を進めた。						
② アンケート等による 分析	久留米市在住の来館者からは、連綿と続く久留米の歴史を知り、勉強になったとの感想が挙がっている。市外、県外のほか、海外からも定期的に来館している。また、講座や体験のような関連イベントが、久留米市や有馬家の歴史に関心を持つ契機になっているようである。						
③ 入場者・参加者 総数	入館者 令和2年度 3,364人 令和3年度 4,357人 令和4年度 3,529人 令和5年度 3,886人 ※令和6年2月には、リニューアルオープン後の入館者が10万人を超えた						
④ その他の実績	久留米城跡や近隣で開催される鈴虫まつり(8月)やBS通りさくらまつり音楽祭(3月)等のイベントと連携をとることにより、来館者数の増加と施設の周知を図った。また、状況に応じて開館時間の延長や入館料を無料にするなどの取り組みを行った。						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	9,341	10,435	10,172	9,787	9,787	
	決算	8,125	8,035	8,472	9,187		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	展示会開催時のチラシ・ポスターの印刷・配布や、財団HPや公式SNS、市広報等での情報発信を行い、事業の周知に努めた。チラシに関しては、市内外のホテル、空港の観光案内所等にも新たに配布を行った結果、ホテルや観光案内所で、有馬記念館を知って訪れた来館者が一定数見られる。						
総合評価 (いずれかに○)	A: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい						
総合評価の基準	定期的な展示会の開催等により、古文書や美術工芸品などの展示が可能な久留米市内唯一の歴史系展示施設としての役割を果たし、地域の歴史文化や魅力の発信に寄与できたか、という視点で判断した。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	市内からの来館者数を増やし、市民に郷土の歴史文化を多角的に知ってもらうために、関連イベント等を通して展示をより広く周知していきたい。また、学校と連携し、校外学習に展示会の鑑賞を活用してもらうことで、若年層の来館者数増加を図る必要がある。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	歴史ルートづくり事業				担当課	文化財保護課	
計画の柱	(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造						
取組みの内容	③文化財や伝統文化の保存・継承とその活用による郷土愛の醸成及び地域の活性化						
取組み項目	ウ.文化財を活用した地域の魅力向上						
① 目標達成状況・ 得られた成果	久留米市文化財保存活用地域計画（以下地域計画）の策定を進めつつ、高良山総合調査等、歴史遺産活用の拠点となる地域の文化財の悉皆的調査に取り組んできた。地域計画では、それまで歴史ルートづくり事業において継続してきた、地域住民とともに、地域の歴史遺産を守り、活かしていく仕組みを「筑後川遺産」として制度化した。 令和３年度に地域計画が国の認定を受け、令和４年度には公募による筑後川遺産登録第１号「城島酒蔵ものがたり」と第２号「田主丸・祭りの賑わう里」が誕生した。申請団体はそれぞれの地域で、筑後川遺産を活用して活発に活動を行っている。 高良山総合調査の成果としては、高良大社文書（百四十六通）が新たに国の重要文化財に指定されることになり、高良山総合調査と、高良山の歴史遺産の保存・活用をテーマにしたシンポジウム「歴史をつなぐ高良山の文化財」を開催することができた。なお、高良山総合調査は現在、福聚寺の調査・資料整理を継続している。						
② アンケート等による 分析							
③ 入場者・参加者 総数							
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	18,130	10,813	3,715	4,062	4,505	
	決算	13,742	7,648	1,399	4,152		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	重要文化財の新規指定や、筑後川遺産の認定、イベント等の開催については、マスコミ各社にニュースリリースし、取材を受け新聞紙上等で取り上げられた。また、市HP上でも情報発信を行うとともに、動画を制作し市公式YouTubeで公開するなどの取組みを進めた。						
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい						
総合評価の基準	市内各地域に所在する数多くの歴史遺産を、歴史ストーリーで結び、筑後川遺産として保存活用を図る仕組みの制度化ができたことや重要な歴史遺産の調査が着実に進んでいることから。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	現在、高良山総合調査を継続しつつ、梅林寺所蔵の資料調査にも着手しており、歴史遺産の保存と地域資源の磨き上げのために、今後も充実した取り組みを続ける必要がある。 筑後川遺産については、現在新規登録を目指す案件が１件あり、地域の団体が主体となって準備を進めている。今後も継続して新規登録を増やし、郷土愛の醸成や地域の活性化につなげて行く必要がある。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	文化芸術事業を活用した賑わい創出事業	担当課	久留米シティプラザ																								
計画の柱	(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造																										
取組みの内容	④様々な政策分野との連携																										
取組み項目	ア 文化芸術事業と観光・まちづくり産業などとの連携・協働																										
① 目標達成状況・ 得られた成果	【目的】 久留米シティプラザを中心とした中心商店街で開催する「久留米たまがる大道芸」、「くるめ楽衆国まつり」事業を実施することで、あらゆる市民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、中心市街地に賑わいを創出する。 【達成状況・成果】 ○大道芸と商店街催事の同日開催や平日の広場での無料コンサート、「くるめ楽衆国まつり」で無料の映画上映を行うなど、中心市街地に賑わいを生み出すことができた。また、周辺店舗での飲食や買い物をした人も多く（大道芸では82%）経済効果にもつながった。 ・「久留米たまがる大道芸」 ...商店街や広場等の街なかを舞台に行う大道芸フェスティバル R4年度に再開し2～3万人が来場。商店街の「まちあるき」催事との連携（同日開催）により、賑わいの創出と来場者の消費活動をもたらした ・「ランチタイムコンサート」 ...平日の昼間に六角堂広場で行う無料の音楽コンサート 音楽事業の実績を持つ(公財)久留米文化振興会と連携し、地元音楽家の演奏会を実施 ・「くるめ楽衆国まつり」 ...家族向け作品を中心とした無料の映画上映会（ザ・グランドホール） まつりへのファミリー層の集客の役割を果たすとともに、初めての来館者の取り込みにもつながった																										
② アンケート等による分析	○大道芸は幅広い世代、楽衆国まつりは子育て世代、ランチタイムコンサートは高齢世代が主に来場 ・久留米たまがる大道芸(R6) 30～70代 15～20%、市民74%、周辺利用82%、チラシで知った23% ・くるめ楽衆国まつり（R6） 30～40代 68%、子どもと来場 82%、市民 80%、SNSで知った 44% ・ランチタイムコンサート（R6） 60・70代 72%、市民 79%、周辺利用 83%、チラシで知った 35%																										
③ 入場者・参加者 総数	<table><tr><td></td><td>R2年度</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td></tr><tr><td>久留米たまがる大道芸</td><td>(中止)</td><td>300人(写真展)</td><td>21,000人</td><td>20,000人</td><td>30,000人</td></tr><tr><td>くるめ楽衆国まつり</td><td>(中止)</td><td>(中止)</td><td>(中止)</td><td>743人(映画)</td><td>1,400人(映画)</td></tr><tr><td>ランチタイムコンサート</td><td>—</td><td>—</td><td>1,570人</td><td>1,700人</td><td>1,370人</td></tr></table>				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	久留米たまがる大道芸	(中止)	300人(写真展)	21,000人	20,000人	30,000人	くるめ楽衆国まつり	(中止)	(中止)	(中止)	743人(映画)	1,400人(映画)	ランチタイムコンサート	—	—	1,570人	1,700人	1,370人
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																						
久留米たまがる大道芸	(中止)	300人(写真展)	21,000人	20,000人	30,000人																						
くるめ楽衆国まつり	(中止)	(中止)	(中止)	743人(映画)	1,400人(映画)																						
ランチタイムコンサート	—	—	1,570人	1,700人	1,370人																						
④ その他の実績	・「久留米たまがる大道芸」では、コロナにより固定会場の縮小を余儀なくされたが、令和4年度より、商店街を回遊する子ども向け企画やパフォーマーが商店街を練り歩くパレードを開始 ・「ランチタイムコンサート」は、約250席設置した椅子が主に高齢世代の人で満席になり、立ち見の人も多く見られた																										
⑤ 予算・決算	<table><tr><td></td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td><td>(千円)</td></tr><tr><td>予算</td><td>9,880</td><td>7,300</td><td>6,940</td><td>6,935</td><td>8,744</td><td></td></tr><tr><td>決算</td><td>2</td><td>0</td><td>5,750</td><td>6,566</td><td></td><td></td></tr></table>				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)	予算	9,880	7,300	6,940	6,935	8,744		決算	2	0	5,750	6,566					
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)																					
予算	9,880	7,300	6,940	6,935	8,744																						
決算	2	0	5,750	6,566																							
⑥ 広報の実績及び効果・課題	「久留米たまがる大道芸」、「くるめ楽衆国まつり」の広報では、特に子どもの来場促進のため、市内小学校等の児童生徒にチラシを配布し、いずれも多くの親子連れの来場につながった																										
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい																										
総合評価の基準	○来場者目標の達成度 「久留米たまがる大道芸」目標20,000人、「くるめ楽合衆国まつり」「ランチタイムコンサート」目標1,000人																										
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	計画の柱に掲げる「久留米ならではの文化芸術資源を活かした・・・」の部分は、企画内容への盛り込みや更なる関係団体等との連携の強化を図り、地域性を高めていく。																										

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	久留米市未来の地域リーダー育成プログラム事業 (文化芸術リーダー育成事業) ※R5年度までの「中学校美術教育振興事業」から名称・内容変更		担当課	学校教育課		
計画の柱	(2) 久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造					
取組みの内容	④ 様々な政策分野との連携					
取組み項目	イ.文化事業と教育・福祉との連携・協働					
① 目標達成状況・ 得られた成果	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止したが、令和3年～5年度は市内中学校17校で実施できた。(ただし、感染症拡大防止のため令和3年度と令和5年度は2校が中止) 平成27年度から実施している本事業は、市内中学校17校の1年生を対象とし、久留米市美術館で行われる企画展や常設展を鑑賞することによって、美術への興味・関心を高め、豊かな心と郷土を愛する心を育む機会となっている。					
② アンケート等による 分析	学校からの報告書から、「ほとんどの生徒が美術館での鑑賞活動を経験していたが、教科書でも見ることはできないような名画を説明を聞きながら鑑賞でき、子どもの美術に対する関心を高めることができた。」「久留米を代表する画家の作品を鑑賞し、その生涯についても知ることができ、絵画そのものだけでなく、地域への興味・関心も深めることができた。」などの記載があり、本事業が高く評価されていることがうかがえる。					
③ 入場者・参加者 総数	【実施校数・参加生徒数】 令和2年度 0校 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため) 令和3年度 15校 2,193名 (感染症拡大防止のため2校が中止) 令和4年度 17校 2,360名 令和5年度 15校 2,102名 (感染症拡大防止のため2校が中止)					
④ その他の実績						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (千円)
	予算	2,968	2,890	2,768	2,646	2,646
	決算	0	2,100	1,915	2,379	
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	事前・事後学習に活用できるように久留米市出身の画家の生涯や代表作品の紹介動画、久留米市美術館が作成した「石橋正二郎紹介動画」のURLを各学校に知らせ、総合的な学習の時間における「くるめ学」の学習等で視聴し、石橋正二郎氏の生涯や偉業について、美術や久留米市出身の画家への興味・関心につなげるようにした。					
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい					
総合評価の基準	毎年度、学校から提出される報告書の「成果と課題」の記載内容から判定した。					
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	令和6年度から事業名及び実施校数を毎年市内5校程度とし、3年間で全中学校において美術館鑑賞が実施できるように変更している。 授業との兼ね合いもあるが、各学校には生徒がゆっくりと鑑賞できるようにゆとりを持った計画を立てるように依頼しておく必要がある。また、限られた時間の中で充実した鑑賞ができるように、鑑賞形態やボランティアガイドさんの解説等について、美術館と情報共有しながら、今後も事業の実施に努める。					

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	(公財)久留米文化振興会事業(補助金)			担当課	文化振興課	
計画の柱	(2)久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造					
取組みの内容	⑤公益財団法人久留米文化振興会の組織強化への支援					
取組み項目	ア.公益財団法人久留米文化振興会の施策展開への支援					
① 目標達成状況・ 得られた成果	令和2年～3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの事業が中止・延期。(令和2年度はバラフェア・鑑賞事業・展覧会等一部中止、令和3年度もバラフェア等を中止。鑑賞事業は50%制限にて一部開催したが、オンラインによる動画配信など新たな取り組みを行った。)、令和4～5年度は事業計画通り実施出来た。 令和2年～3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの事業が中止・延期を余儀なくされたが、感染症対策を講じながら、少しずつ活動を再開した。また、同時にキャッシュレス化・WiFi設備の設置、デジタル化等を推進した。コロナ禍にありながらも、久留米市と「車の両輪」となって、様々な事業を実施し、文化行政を推進した。					
② アンケート等による 分析	各事業のアンケートでも久留米市内のみではなく、福岡県内、県外からも多数来園いただいている。交通手段は自家用車が多く、リピーター数も多い。来園者からは「毎年のイベントも平日も頻繁にきているが、いつ来てもみんなが思い思いに楽しめる雰囲気作りに脱帽です。これからも素晴らしい庭園や楽しいイベントを楽しみにし、色々な人を連れていきたい」など高く評価されていることがうかがえる。 令和6年度においても、各事業アンケートを実施し、随時事業の感想や今後の希望を聞き取っている。					
③ 入場者・参加者 総数	【入園者数】(単位：人) 令和2年度 290,810 令和3年度 305,370 令和4年度 401,495 令和5年度 419,423					
④ その他の実績	キャッシュレス化、WiFi設置(石橋文化ホール・石橋文化会館)					
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度(千円)
	予算	304,993	330,144	312,790	358,997	324,600※運営費、施設整備費の合計
	決算	288,595	307,783	295,356	331,811	
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	広報はWEB及び紙媒体・マスメディア・広報誌を中心に展開しており、WEBではホームページ・公式LINE・公式Instagramで広い世代に周知している。また、久留米シティプラザ内情報サテライトにおいて、文化センター・美術館の情報を発信している。 一方で、若い世代へのアプローチが課題となっており、webサイト改修やSNSの効果的な活用を図っていく。					
総合評価 (いずれかに○)	A: 目標達成見込み B: 目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい					
総合評価の基準	石橋文化センターにおいては、美術館と連動した事業実施。シティプラザ等では、市から委託を受けた文化事業の実施等、市と「車の両輪」となって、文化事業を推進したことから判断した。					
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	当財団が管理運営する共同ホールは令和6年3月に閉館。また、石橋文化ホールも61年が経過し長寿命化に向けた対策が必要である。少子高齢化が進む中、文化芸術の裾野を広げる取組と、誰もが楽しめるバリアフリー化の推進が必要である。					

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	久留米シティプラザ 自主事業				担当課	久留米シティプラザ	
計画の柱	（３）文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	① 久留米シティプラザを創造・発信の拠点とする文化芸術事業の推進						
取組み項目	ア.上質で多彩な鑑賞事業の実施						
① 目標達成状況・ 得られた成果	【目的】 久留米シティプラザを活用し、市民に上質で多様な文化芸術を鑑賞する機会や市民が自ら活動し発表する場を提供するとともに、市民の様々な文化芸術活動や新たな文化芸術の創造を促進していく。						
	【達成状況・成果】 ○地方で本物の舞台芸術の鑑賞機会を提供するため、チケット料金を低く設定し多くの市民が来場						
	【事業実績】						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	(1)演劇（２本）	子午線の祀り	－	桜姫東文章	－		
	(2)音楽（５本）	中川賢一 さだまさし	藤井フミヤ －	NHK新BS日本のうた －	N響・田中菜緒子 －		
	(3)伝統芸能（４本）	落語(桃月庵白酒)	－	雅楽公演	狂言公演 雅楽(映像)		
	(4)その他（１本）	－	－	NHK生さだ	－		

	合計	4本	1本	4本	3本		
② アンケート等による分析	・公演アンケートの満足度						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	「大変満足・まあ満足」	98.8％	100％	93.7％	99.3％		
③ 入場者・参加者 総数		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	(1)演劇（２本）	1,499人	－	487人	－		
	(2)音楽（５本）	1,655人	985人	604人	1,032人		
	(3)伝統芸能（４本）	137人	－	402人	1,209人		
	(4)その他（１本）	－	－	79人	－		

	合計	3,291人	985人	1,572人	2,241人		
④ その他の実績	○鑑賞サポートの実施（聴覚・視覚障害者に字幕・音声ガイド、障害者の介助者の無料化）						
	○WEB及び総合受付でのチケット販売のキャッシュレス化（クレジットカード、電子マネー決済等）						
	○広域連携中枢都市圏の連携として、圏域住民のチケット先行販売の実施						
	○館内での託児の実施 ※シティプラザ自主事業（鑑賞事業）時						
	○安定的な事業実施のため、助成金を申請し、外部資金を獲得						
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	採択金額	3,136千円	6,000千円	16,005千円	19,357千円		
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	87,383	61,308	51,443	49,889	43,161	
	決算	36,216	25,922	30,900	35,843		
⑥ 広報の実績及び効果・課題	○従前は自主事業の実施記録をアーカイブとして公開ができていなかったことを踏まえ、各事業のレポートまたは有識者等執筆による批評文を作成し、WEB公開を実施						
	○新聞やテレビなどメディアに取り上げられた						
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ 目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい						
総合評価の基準	○公演アンケートの満足度（「大変満足／まあ満足」）が、各年度 90％以上を獲得						
	○助成金など外部資金獲得金額 目標額10,000千円						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	多様かつ上質な鑑賞事業を自主企画・立案できるノウハウの継承や安定的な事業運営のため、専門スタッフの育成と定着、さらには、助成金をはじめとした外部資金の継続獲得を図る。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	久留米シティプラザ 提携事業		担当課	久留米シティプラザ		
計画の柱	（３）文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進					
取組みの内容	① 久留米シティプラザを創造・発信の拠点とする文化芸術事業の推進					
取組み項目	ア.上質で多彩な鑑賞事業の実施					
① 目標達成状況・ 得られた成果	【目的】 久留米シティプラザを活用し、市民に上質で多様な文化芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民のさまざまな文化芸術活動や新たな文化芸術の創造を促進していく。 【達成状況・成果】 ○プロモーター等との関係構築により、音楽や演劇、ミュージカルなど全国巡回公演等を誘致・実施し、市民をはじめ域外から多くの来場があった。 【事業実績】（「音」音楽、「劇」演劇・ミュージカル、「伝」伝統芸能、「舞」舞踊・バレエ、「他」その他） R2：劇5、伝1 / 生きる、ねずみの三銃士、オソロ、未来記の番人、柳家花緑 他 R3：音1、劇7、伝1、舞1、他1 / ゴスペラーズ、サンソ、衛生、ロシアバレエ、サントウィッチマン 他 R4：音3、劇6、伝1 / 兵庫芸文管弦楽団、辻井伸行、毒薬と老嬢、すぐ死ぬんだから 他 R5：劇4、伝1 / 垣根の魔女、終わった人、リミジン、ファインディング ネバーランド、柳家花緑 他					
② アンケート等による分析	○市政アンケートモニター「くるモニ」より ・「久留米シティプラザに行ったことがある」 →（「ある」回答者の理由・目的 ↓） ・「公演など鑑賞」	R2年度 80.8% 51.9%	R3年度 80.1% 50.9%	R4年度 82.6% 42.0%	R5年度 80.9% 46.2%	
③ 入場者・参加者 総数	(1)演劇・ミュージカル (2)音楽 (3)伝統芸能 (4)舞踊・バレエ (5)その他 ----- 合計	R2年度 8,617人 － 173人 － － 8,790人	R3年度 11,441人 1,363人 176人 1,187人 762人 14,929人	R4年度 8,549人 2,455人 234人 － － 11,238人	R5年度 10,106人 － 234人 － － 10,340人	
④ その他の実績	提携相手（興行主）数 実施本数 分野数（音楽、演劇など）	R2年度 3者 6本 2分野	R3年度 6者 11本 5分野	R4年度 4者 10本 3分野	R5年度 2者 5本 2分野	
⑤ 予算・決算		令和2年度 116,012 12,868	令和3年度 55,992 20,925	令和4年度 34,850 16,339	令和5年度 25,615 13,385	令和6年度 27,118 － (千円)
⑥ 広報の実績及び効果・課題	主な広報掲載先 ・シティプラザWEB、SNS（公演、チケット発売情報など）、ポスター掲示、チラシ配架					
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み (B)：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい					
総合評価の基準	○久留米シティプラザに「行ったことがある人」の理由・目的が、「公演など鑑賞」である人の割合 50%以上を獲得					
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	今後、福岡市にオープン予定のホールをはじめ、他館との競争激化が想定される中、話題性のある鑑賞事業を市民に提供するため、様々なプロモーターとの更なる関係構築を図る。					

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	久留米シティプラザ 魅力発信事業				担当課	久留米シティプラザ	
計画の柱	(3) 文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	① 久留米シティプラザを創造・発信の拠点とする文化芸術事業の推進						
取組み項目	ウ.積極的な広報活動の実施や施設の利便性の向上						
① 目標達成状況・ 得られた成果	【目的】 久留米シティプラザのさらなる情報発信やサービスの向上等により、施設利用の促進へとつなげ、シティプラザをこれまで以上に活用してもらうことで、市民のさまざまな文化芸術活動や新たな文化芸術の創造を促進していく。						
	【達成状況・成果】 ○シティプラザWEBの閲覧数、各施設の稼働率は、コロナ後増加傾向						
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	・WEB閲覧数	783,312	1,010,333	1,273,715	1,288,872		
	(月平均)	(65,276)	(84,194)	(106,143)	(107,476)		
	・稼働率 (Gホール)	40%	55%	73%	72%		
	(久留米座)	27%	44%	57%	59%		
	(Cボックス)	20%	30%	53%	50%		
	(六角堂広場)	20%	33%	47%	52%		
	(会議室(大中小))	76%	80%	94%	94%		
(スタジオ)	30%	39%	57%	60%			
② アンケート等による分析	○公演アンケートから「初めて来館した」人は年々減少 (R3：35.3%→ R5：19.4%) し、すでに来たことがある人の割合が増加						
	○「公演を知った方法」の設問では以下のとおり、 <u>チラシ</u> 、 <u>ポスター</u> 、 <u>口コミ</u> が多い結果となった。 R5年度：①チラシ (20.6%)、②友人・知人から (17.6%)、③館内ポスター (14.7%) など R4年度：①友人・知人から (20.2%)、②広報久留米 (12.8%)、③チラシ (12.0%) など R3年度：①出演者・関係者から(19.5%)、②チラシ(16.3%)、③館内ポスター(10.6%) など						
③ 入場者・参加者 総数	・シティプラザ来館者数の推移 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度 120,370人 163,428人 350,290人 457,618人						
④ その他の実績	・シティプラザ発行の広報誌、チラシの設置個所 <u>379か所</u> (事業の内容により増減する)						
	・R6年度 広報掲載実績 (11月1日時点) <u>新聞 13件</u> <u>テレビ 5件</u> <u>ラジオ 11件</u> <u>雑誌等 9件</u> <u>WEB 4件</u>						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	11,758	11,113	8,587	5,852	5,335	
	決算	8,979	8,193	7,267	4,674		
⑥ 広報の実績及び効果・課題	・事業チラシは、 <u>子ども向けは市教委後援により学校へ配布</u> 。その他、 <u>市内外の施設への設置</u> や事業内容に応じて <u>他館の類似公演時に折込みを依頼</u>						
	・季刊誌は読む記事への変更、 <u>広報久留米への掲載強化</u> 、 <u>メディアのパブリシティ活用強化</u>						
	・公式WEBやSNS (Facebook、Instagram、LINE) 等により、事業や施設情報をタイムリーに発信 登録数(12/1)：Facebook <u>3,658名</u> 、Instagram <u>2,351名</u> 、LINE <u>2,598名</u> 、Youtube <u>364名</u>)						
	・メディアへの情報提供は、一括発信(ニュースリリース)のほか、企画の詳細を個別発信する活動を追加						
	・スタッフの動画等作成スキルの向上、デジタル媒体の機器を持つ施設との連携強化が課題						
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み (B)：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	○シティプラザWEBの月平均閲覧数 15万件						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	・デジタル化の潮流のなかで、紙媒体の展開のあり方は慎重に検討していく ・SNSの発信効果を更に高めるため、登録者を増やす取組を進める						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	美術館事業（コレクション形成）			担当課	文化振興課		
計画の柱	（３）文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	② 魅力あふれる美術館づくり						
取組み項目	ア.郷土の歴史をふまえた特徴あるコレクション形成						
① 目標達成状況・ 得られた成果	目的：美術館の運営が、平成28年10月に（公財）石橋財団から市へ移行したことに伴い、新たな美術館としてのビジョン・コンセプトに基づき、九州全域に目を向け、久留米ゆかりの作家を核とした九州洋画の体系的コレクションを形成する。 状況：収集候補作品は「久留米市美術品収集委員会」で審議の上、決定しており、令和5年度末までに、224点（購入：130点、寄贈：94点）の作品を順調に収集した。 美術振興基金には、令和2～4年度に個人6名から合計約3,250万円の寄付をいただいた。						
② アンケート等による分析	「久留米市美術品収集委員会」においては、「久留米市美術品収集方針」に基づき、久留米市が収集するにふさわしい作品が審議されている。						
③ 入場者・参加者 総数							
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	（千円）
	予算	112,131	67,326	66,802	80,341	80,401	
	決算	23,498	11,752	27,340	8,443		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	収集した作品は、久留米市美術館でのコレクション展等で随時公開しているほか、美術館での調査研究資にも活用されている。また、久留米市美術館HPの「コレクション」ページにおいて、主要なコレクションの画像を紹介している。						
総合評価 （いずれかに○）	A：目標達成見込み B ：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	これまで、市ゆかりの画家の作品等を順調に収集できているが、優れた作品の収集を継続するため、美術振興基金への寄付を積極的に呼びかけていく必要がある。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	美術品及び美術に関する資料を取得するための資金を積み立てるため、平成27年1月に「美術振興基金」を設置し、広く寄付を募っているが、令和5年度以降は寄附がないため、基金への寄附の呼びかけ、PRの検討が必要。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	美術館事業（展覧会、教育普及事業）	担当課	文化振興課				
計画の柱	（３）文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	② 魅力あふれる美術館づくり						
取組み項目	イ.魅力ある展覧会や教育普及活動の展開						
① 目標達成状況・ 得られた成果	R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、コレクション展の会期を短縮、1階展覧会「ルート・ブリュック」展は中止となったが、2階での展覧会は、感染防止対策をしながら開館を続けた。R3年度の1月からR4年度10月まで、トラックヤード改修工事の為、10か月休館したが、その間は「ペリかんくらぶ」と称して、石橋正二郎記念館で美術館活動を継続した。R2～4年度は、コロナによる外出の自粛などが響き、R5年度以降も団体来館者の減少等もあり、展覧会入館者は当初目標を下回ることとなった。 教育普及活動は、R2年度の「鴨井玲展」から新型コロナの感染対策をとりながら講座やギャラリートークを再開し、その後もオンラインによる講座やワークショップ等、新たな試みも行った。						
② アンケート等による 分析	展覧会のアンケートでは、コロナ禍中でも対策をとりながら展覧会を継続したことに対して、多くの美術ファンから好意的に受け取られ、不安な状況下でも芸術に触れることが出来る喜びを表される声が多く寄せられた。またいずれの展覧会も内容の質の高さなど満足度が高い評価をいただいている。講座やワークショップなども、参加者から好評で、令和5年度開催の「アーツ・アンド・クラフツ」展では、椅子づくりワークショップに定員に対し約30倍の申し込みがあった。						
③ 入場者・参加者 総数	●展覧会入館者 R2(2020) 39,096人 R3(2021) 33,394人 R4(2022) 26,388人 R5(2023) 44,000人 R2～5年度累計 142,878人 ●記念館入館者 R2(2020) 11,192人 R3(2021) 15,939人 R4(2022) 25,894人 R5(2023) 20,006人 R2～5年度累計 73,031人 ●講座参加者 R2（2020）196人 R3（2021）307人 R4（2022）536人 R5（2023）686人 R2～5年度累計 1,725人 ●ワークショップ参加者 R2（2020）22人 R3（2021）176人 R4（2022）287人 R5（2023）227人 R2～5年度累計 712人						
④ その他の実績	コロナ禍中での、オンラインによる講演会やワークショップの開催。また、久留米市美術館コレクションの紹介動画を制作し、HPやSNSで公開した。小学生向けに「石橋正二郎紹介動画」を作成、HP上で公開したほか、小学生来館時に活用した。 R4年度アクロス福岡での出張講演会やワークショップを開催。						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	172,049	186,932	173,468	219,235	199,432	美術館指定管理料
	決算	172,049	186,932	173,468	219,235		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	SNSは美術館開館前から運用していたフェイスブックに加え、R1(2019) にツイッター、R4（2022）にインスタグラムを開設し、計画的かつ弾力的に活用を図っている。紙代や送料の値上がりもあることから、紙媒体からWEB媒体へと、より効果的な広報ヘシフトチェンジを図る必要があると考えている。						
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準							
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	期間中はコロナの影響による展覧会の中止や臨時休館に加え、R3年12月からR4年10月にかけては、トラックヤード改修工事、R6年1月から3月は美術館外壁工事による休館があったものの、魅力的な展覧会やワークショップ等の教育普及事業に積極的に取り組んだ。 R7年度からは久留米市美術館開館10周年記念事業に取り組むほか、石橋正二郎記念館のリニューアルも予定され、これは、公益財団法人石橋財団の支援により実施される。久留米市美術館開館以降、毎年石橋財団からの特別助成展覧会を実施しており、これが魅力ある展覧会実現の大きな要因となっている。今後は、魅力ある展覧会をいかに広域に効果的に広報していくかが課題である。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	美術館事業（石橋文化センター全体のミュージアム化）		担当課	文化振興課			
計画の柱	（３）文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	② 魅力あふれる美術館づくり						
取組み項目	ウ.石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動						
① 目標達成状況・ 得られた成果	●ミュージアムコンサート 美術館展覧会とコンサートを併せて楽しむことができるミュージアムコンサートは、展覧会毎に開催し、定番化している。また、子ども向けの「ミュージアムコンサートforキッズ」も好評を得ている。 ●園内ミュージアム事業 R4（2022）年度から始めたミュージアムハロウィンはファミリー層に人気となっている。 ●アートフェスティバル 久留米市美術館開館当初より取り組んでいるアートフェスティバル（アートプロジェクト）では、地域のアーティストや子ども、大学生等の参画により、それまでになかったアーティストや学校等との繋がりが構築されている。						
② アンケート等による 分析	●ミュージアムコンサート ミュージアムコンサートは、美術と音楽を気軽に楽しめることから、ミュージアム会員を中心に一定のファン層がついた事業といえる。 ●園内ミュージアムイベント ミュージアムハロウィン、クリスマスともにファミリー層を中心に定着している。 ●アートフェスティバル 回数を重ねるごとに市民に認知されるようになり、アートフェスティバル目的での来園者も増加傾向にある。						
③ 入場者・参加者 総数	●ミュージアムコンサート R2（2020）992人 R3（2021）1,020人 R4（2022）1,886人 R5（2023）1,329人 R2～5年度累計 5,227人 ●ミュージアムイベント期間中來園者 R2（2020）16,530人 R3（2021）27,357人 R4（2022）67,734人 R5（2023）54,248人 R2～5年度累計 165,869人 ●アートフェスティバル企画参加者など 参加アーティスト数：R2（2020）0人 R3（2021）6人 R4（2022）9人 R5（2023）5人 R2～5年度累計20人 参加学校数：R2（2020）2大学19人 R3（2021）2大学21人 R4（2022）2大学12人 R5（2023）3大学10人 R2～5年度累計 62人						
④ その他の実績	●ミュージアムコンサート R5(2023)は子ども向けのコンサートを行い、好評を得た。 ●園内ミュージアムイベント R4（2022）年度からミュージアムハロウィンを実施した ●アートフェスティバル R2(2020)はフェスティバルのPR動画を作成。またR5(2023)には石橋文化センターアートプロジェクトでInstagramの立ち上げ及び運用。						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	－	－	－	－	－	※（公財）久留米文化振興会 事業（補助金）等を含む
	決算	－	－	－	－	－	
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	予告チラシ、ポスター、当日チラシの作成、当団体の機関誌、webサイト及びSNSを通じて広報している。 久留米市のLINE、小学生へのチラシ配布等はワークショップへの参加申込等に目に見えて効果が出ている。 今後は、SNSによる情報発信について研究を進め、魅力ある広報の実現を目指す。						
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準							
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	久留米市美術館開館を契機に開始した事業であり、美術館事業と園内イベント等との連携や、中央図書館をはじめとした園内施設・他団体等と連携した事業の企画等を継続的に展開しているが、展覧会内容との連動が難しいこともある。 各事業において、企画段階から部門間における更なる調整を図り、相乗効果を高める取組みが必要である。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	美術館事業（寄付やボランティア制度など）	担当課	文化振興課				
計画の柱	（３）文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	② 魅力あふれる美術館づくり						
取組み項目	Ⅰ.市民とともに創り育てる仕組みづくり						
① 目標達成状況・ 得られた成果	●美術館ボランティア 石橋美術館時代からの制度を受け継いだ美術館ボランティアは、展覧会でのギャラリートークや小中学生の美術鑑賞事業時に作品解説を行うなどしている。コロナ禍で活動が一時縮小したが、R6年度からはほぼコロナ前どりの活動が行われている。 ●友の会会員 久留米市美術館運営移行を機にスタートした友の会のミュージアム会員制度により、一時落ち込んでいた友の会会員数がR5年度から増加に転じた。コロナ禍で大幅に会員数の減少が懸念されたが回復しつつある。またミュージアム会員は展覧会入館者の安定した一つの柱になりつつある。 ●協賛・寄付制度 スペシャルパートナーのブリヂストンをはじめ、オフィシャルパートナー、一般協賛及び寄付により、ミュージアム化事業などを実施することができている。						
② アンケート等による 分析	●美術館ボランティアは、コロナ禍で活動は一時的に減ったが、対面で集まれるようになってからは活気が戻り、活動が増えてきている。						
③ 入場者・参加者 総数（年度末）	●美術館ボランティア R2（2020）41人 R3（2021）35人 R4（2022）32人 R5（2023）26人 ●友の会会員 R2（2020）410人（うちミュージアム会員340人） R3（2021）427人（うちミュージアム会員357人） R4（2022）406人（うちミュージアム会員328人） R5（2023）467人（うちミュージアム会員370人） ●企業協賛制度 R2（2020）パートナー法人6社、一般法人35社 R3（2021）パートナー法人6社、一般法人40社 R4（2022）パートナー法人6社、一般法人44社／R5（2023）パートナー法人6社、一般法人42社 ●寄付制度 R2（2020）0件0円 R3（2021）7件369,000円 R4（2022）2件153,000円 R5（2023）4件296,000円						
④ その他の実績	●美術館ボランティア コロナ禍で来館者に向けたトークの実施が難しい時期に、代替として事前に坂本繁二郎旧アトリエについてや、坂本繁二郎についてのトークを撮影し、アトリエ内のテレビでその映像を流して対応した。 また、新規募集の際に、スムーズに活動を開始できるように、これまでの応募・選考・研修までの流れを見直した。 ●友の会会員 会員限定の事業として、R5年度から展覧会ごとに「ミュージアムレクチャー」を開催した。 ●協賛寄付制度 R3年度からは寄付募集のチラシを作成、周知している。R6年度には、新たに久留米工業大学からキャンパスパートナーの申し込みがあった。						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	（千円）
予算		－	－	－	－	－	
決算		－	－	－	－	－	
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	●美術館ボランティア 2023年度に新規ボランティア募集のため、当館webサイト等で発信するとともに募集要項を3,500部制作し、近隣の公共施設に配布。 ●友の会会員 新規会員募集のために、チラシ5000部作成、文化センター情報誌（2月に1回発行10000部）への募集記事掲載、webサイトでの案内を実施 ●協賛寄付制度 R3年度からは寄付募集のチラシを作成、周知したことにより個人からの毎年の寄付賛同つながった。						
総合評価 （いずれかに○）	Ⓐ：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	友の会会員数が増加傾向にあること及び協賛企業数を確保できていることに加え、新たな寄付制度創設により、市民に親しまれる美術館の取組みを推進できている。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	寄付及びボランティアの実績等の更なる周知を図り、市民や企業・団体の賛同者の拡大を図ることが必要。 また、キャッシュレス決済による寄付受付の仕組み作りに取り組むことも課題である。 友の会制度は、継続率を高める取り組みと、情報発信による新規会員獲得が課題である。						

久留米市文化芸術振興基本計画事業説明資料

事業名	そよ風ホール活用事業	担当課	文化振興課 田主丸総合支所文化スポーツ課				
計画の柱	(3) 文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	③ 各文化施設の強みを活かした効果的な事業の展開						
取組み項目	ウ. 田主丸複合文化施設〔そよ風ホール〕文化ホール						
① 目標達成状況・ 得られた成果	令和2年度から令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年度当初計画の変更を余儀なくされ中止した事業もあったが、人数制限やSNS配信などの工夫をしながら可能な限り実施した。 令和4年度は、当初計画の事業を感染症対策（人数制限など）を行いながら予定通り実施した。 令和5年度は、7月の豪雨災害でそよ風ホールが被災し施設を休館したため多くの事業を中止したが、年度末に地域と連携して演奏会を実施した。 令和6年度は、昨年度に引き続きそよ風ホールが休館しているため、地域の公共施設を活用した演奏会や、まちづくり組織と連携したアウトリーチ事業（ジャズやバイオリン、歌によるミニコンサート等）実施している。						
② アンケート等による分析	招へい事業（質の高い本格的な演奏会等）では、市内住民だけでなく北九州市や福岡市方面からの来場者がある。また、普及・参加型事業（文化芸術に親しみや関心を高めてもらう演奏会等）では、田主丸をはじめ久留米市東部地域（善道寺、大橋、草野）からの来場者が多くを占めるが、近郊のうきは市や大分県日田市などからの来場者もある。 事業毎のアンケートでは、特に演奏会など音楽系の事業に対して、文化ホールの特性である音の反響の良さが好評であり、満足度の高い回答を得ている。						
③ 入場者・参加者 総数	入場者数 令和2年度：126名 令和3年度：583名 令和4年度：1,689名 令和5年度：606名（アウトリーチ事業を含む） 令和6年度：886名（アウトリーチ事業を含む）						
④ その他の実績	令和5年7月の豪雨災害による施設休館に伴い、当分の間、そよ風ホールを活用した事業を実施出来ないことから、令和5年度末から田主丸地域のまちづくり組織と連携し、校区の実情や要望に応じたアウトリーチ事業（ジャズやバイオリン、歌によるミニコンサート等）に取り組んでいる。						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	7,723	6,565	6,298	5,000	1,230	
	決算	1,500	4,931	5,035	787		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	平成30年度までは、新聞広告（有料）を中心とした広報を行っていたが、令和元年度以降は、市ホームページや公式SNSを中心に広報を実施している。 また、田主丸地域特有の有線放送による広報は令和4年度末をもって終了したため、毎月の市広報紙の各戸配布に合わせて、演奏会等の事業チラシを配布している。その他、市内外の公共施設や商業施設、市東部の校区コミセンにもポスターやチラシの掲示依頼を行い、広く事業周知に努めている。						
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	コロナ禍やそよ風ホールが休館している中においても、地域住民の皆様文化芸術の機会を提供してきたことや、田主丸をはじめ久留米市東部地域（善道寺、大橋、草野）の住民、近郊の自治体住民からも来場いただいたこと、アンケート内容などを踏まえて評価した。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	田主丸複合文化施設（そよ風ホール）は、令和5年7月豪雨災害により甚大な被害を受け、現在も休館している。このため、公共施設の活用や地域のまちづくり組織等との連携を図りながら、市民の皆様が継続的に文化芸術に触れる機会を確保する必要がある。特に、田主丸地域周辺の公共施設には限りがあるため、各施設管理者と協議しながら会場確保に努めなければならない。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	インガットホール活用事業	担当課	文化振興課 城島総合支所文化スポーツ課				
計画の柱	(3) 文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進						
取組みの内容	③ 各文化施設の強みを活かした効果的な事業の展開						
取組み項目	Ⅰ.城島総合文化センター インガットホール						
① 目標達成状況・ 得られた成果	令和2年度及び3年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により当施設についても、実施予定事業の中止や、開催の場合にも人数制限を行った上での実施となった。 令和4年度については、予定していた事業のほとんどについて実施したが、入場者については人数制限をかける等、感染症対策を行った上での実施となった。 令和5年度以降については、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、人数制限等ない状態での事業実施が可能となった。						
② アンケート等による分析	インガットホールで行う公演等についてアンケートを実施しているが、各公演等の来場者については、城島町・三潴町を中心とした久留米市西部地域からの来場が多い。 またその他にも、筑後市や大川市、佐賀県内市町村からの来場者も多く見られる。アンケートの内容については、音楽ホールの特性から、演奏関係の公演については概ね満足度は高い。 一方、トイレ等の設備については、開館から四半世紀経過しているため、最新のホール等と比較すると見劣りする等の意見もある(R6年度改修予定)。						
③ 入場者・参加者 総数	各年度の総数 ・令和2年度：1,491人 ・令和3年度：535人 ・令和4年度：2,532人 ・令和5年度：2,808人 ・令和6年度：1,421人(R6.11現在)						
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	8,130	6,911	6,076	3,500	3,325	
	決算	4,334	3,016	5,211	2,788		
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	インガットホールでの公演については、毎回城島町全域での全戸配布を実施。また、久留米市内の公共施設のほか、市外の公共施設や商業施設にチラシ、ポスターの掲示依頼を行い事業周知に努めた。また、市ホームページや市公式ラインの通知も活用している。アクロス福岡のおでかけナビ等にも登録し、広く広報を行った。						
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	各公演後のアンケートや、アウトリーチ事業実施後の学校への聞き取り調査等を総合的に判断した。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	・新型コロナウイルス感染症拡大影響下の期間を除けば、概ね計画通りに事業を実施し目的を達成した。 ・全市民を対象としつつも、施設の立地等の事情もあり、結果的に久留米市西部地域周辺の住民の参加・来場が中心となっている。 ・市内他施設（久留米シティプラザ・石橋文化ホール・そよ風ホール等）と連携した利用促進。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	芸術家等に関する情報収集				担当課	文化振興課	
計画の柱	(4) 効果的かつ積極的な情報の収集と発信						
取組みの内容	① 芸術家などに関するデータの収集・整理						
取組み項目	ア. 久留米市ゆかりの芸術家等に関する情報の収集						
① 目標達成状況・得られた成果	【目的】インターネット等を活用した多様な手法により、久留米市の文化芸術に関する先達を含め、市内の芸術家や文化芸術団体など久留米市にゆかりのある人材の情報収集に努める。 【状況】インターネット等を活用し、久留米市にゆかりのある人材情報等の収集に努めながら、音楽ポータルサイト「くるおん」で、市の音楽事業へ出演したアーティスト等を紹介したほか、久留米市芸術奨励賞受賞者の活動状況を市ホームページで紹介した。 【成果】「くるおん」に掲載されたミュージシャン等は、市内の他イベントへも出演するなど、情報が活用されている。久留米市芸術奨励賞の受賞者についても、プロフィール紹介が活動支援の一つとなっている。						
② アンケート等による分析							
③ 入場者・参加者総数							
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	※各事業費の予算内（広報費）で対応					
	決算						
⑥ 広報の実績及び効果・課題							
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	地元ゆかりの芸術家等について、一人一人の詳しい活動状況まで把握・紹介しきれていない。情報収集・更新の効果的な手法について、引き続き検討していく必要がある。						
⑦ 今後の改善点、次年度への課題	・現在のアーティストに関する情報は、個人のHPやSNSなど多様な媒体から発信されており、その中から久留米市にゆかりのある人材の情報を検索・把握し、更新していくには、作業的・労力的な難しさがある。 ・引き続き、音楽ポータルサイト「くるおん」で出演ミュージシャン等を紹介していくほか、市HPでの「久留米市芸術奨励賞受賞者」のプロフィールの更新により、地元アーティストのPR・活動支援を図っていくとともに、各事業での出演者の情報等を文化施設間で共有するなど、人材情報の活用を検討していく。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	久留米シティプラザ 普及啓発事業	担当課	久留米シティプラザ				
計画の柱	(4) 効果的かつ積極的な情報の収集と発信						
取組みの内容	② 文化芸術をより身近に感じてもらうための取組みの推進						
取組み項目	Ⅰ. 文化芸術普及活動の実施						
① 目標達成状況・ 得られた成果	【目的】 文化芸術に触れる機会の少ない人やホールに来ることができない人など、あらゆる市民を対象に普及啓発事業を積極的に展開し、シティプラザのファンになってもらう。特に、次代を担う子どもたちには、参加型の体験事業を行い、文化芸術への興味を醸成し、新たな担い手や将来の鑑賞者としての育成を図る。 【達成状況・成果】 ・小学生対象の体験事業は、①キッズワークショップ「こどものあそびば」、②劇場のお仕事体験、③初めての演劇体験事業を継続実施し、普及啓発を図っている。①③は著名アーティストによる企画・進行で始まり、2年目から地元アーティストへ移行。②は職員の技術力やプレゼン力向上にもつながっている。 ・社会課題をテーマに独自の視点で時代を捉えた意欲的な作品の上演「知る/みる/考える 私たちの劇場シリーズ」を年2回実施。関係部局とトークイベントの合同企画など連携を強化。新聞、ラジオ等に計103本掲載(R6前期まで) ・①ユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」(「知る/みる...シリーズ関連事業」)及び②在住外国人と市民等との交流事業では、大学連携による学生の参加を確立。(久留米大学は①②、九州大学は①に参加) ・市民等が在住外国人と文化芸術(ダンス・歌)を通して交流を図るアウトリーチ事業「北野町で会いましょう」では、地域コミュニティ組織や技能実習生の受入農家等と連携して実施。この事業をきっかけに、北野地域でも、在住外国人との交流を始めようとする機運が高まっている。						
② アンケート等による 分析	○参加者アンケート(R5)の満足度(「大変満足／まあ満足」)が、93%以上を獲得 下欄③(1)「イミグレ怪談」93%、「わたしのほころび」100%、(3)98%、(5)「保護者」100%、(8)「フクローじいさんとベル子ちゃん」100%						
③ 入場者・参加者 総数		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	(1)知るみる考える私たちの劇場シリーズ	－	－	399人	376人		
	(2)ユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」	－	－	147人	70人		
	(3)アウトリーチ「北野町で会いましょう」	－	－	－	124人		
	(4)伝統芸能講座	－	26人	49人	231人		
	(5)劇場のおしごと体験	－	－	44人	26人		
	(6)キッズワークショップ「こどものあそびば」	－	－	112人	81人		
	(7)はじめてのえんげき体験ワークショップ	－	－	－	23人		
	(8)0歳から鑑賞できる公演	－	－	－	365人		
	(9)その他 鑑賞、講座、体験事業	85人	604人	626人	934人		
④ その他の実績	R4年度開始 ・鑑賞サポート(音声ガイド、字幕ガイド、障害者の介助者を無料化) ※指定事業 ・「こどものあそびば」の市内文化施設等と連携した巡回実施						
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	4,371	4,371				
	決算	1,667	1,667	「自主事業」シートに統合			
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	・外国人が参加する事業等の広報・周知(WEB、チラシ等)には日本語と英語で表記し、情報保障の拡充を図り、外国人の参加につながった。＜「北野町で会いましょう」の外国人参加者数(6回合計)：R5年度76人＞ ・課題は、在住外国人への情報伝達ルートが確立できておらず、また、日本人の参加促進の強化が必要。						
総合評価 (いずれかに○)	Ⓐ 目標達成見込み B：目標達成に努力を要する C: 目標達成が厳しい						
総合評価の基準	・文化芸術の普及啓発充実のため、8本の継続プログラムを創設(「③入場者・参加者総数」欄の(1)～(8)) ・参加者アンケートの満足度(非常に満足・まあ満足の合計)がすべて90%以上を獲得						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	・子どもが文化芸術を体験、鑑賞する機会の促進を図る。 ・障害者、外国人など多様な市民へのアクセシビリティの充実を図る。 ・シリーズで継続実施している事業は、それぞれの成果と課題を踏まえ、磨き上げを図る。						

久留米市文化芸術振興基本計画 事業評価表（R2年4月～R6年11月）

事業名	様々な媒体を活用した情報発信				担当課	関係各課	
計画の柱	（４）効果的かつ積極的な情報の収集と発信						
取組みの内容	③ 様々な媒体を活用した戦略的な情報の発信						
取組み項目	ア. 広報紙、ケーブル TV、FM 放送等による発信 イ.ホームページの充実、SNS等による発信						
① 目標達成状況・ 得られた成果	【目的】市内の多彩な催しについて、新聞や広報誌といった紙媒体やTV、ラジオ、ホームページ、SNSなど、様々な情報媒体や機能を幅広く活用した情報発信を行う。 【状況】広報くるめ（毎月1回発行）、石橋文化センター広報紙「みどりのリズム」（隔月発行）、久留米シティプラザ情報誌（隔月発行）ドリームスFM（週3～4日放送）での定期的な情報発信に加え、市の音楽情報ポータルサイト「くるおん」で、音楽事業を随時発信した。近年は市公式LINEを活用したタイムリーな情報発信も追加し実施している。 【成果】各種の情報発信により、各イベントへの関心を高め、集客へつなげる効果が出ている。						
② アンケート等による 分析	市政アンケートモニター「くるモニ」や市民意識調査において、市民の情報収集の状況について調査している。近年は文化芸術の情報に限らず、若い世代ほどSNSによる情報収集の利用傾向が高まっている。また、久留米市美術館や久留米シティプラザの各文化施設においても、催事時に来館のきっかけなどを問うアンケート（紙またはWeb回答）を実施している。						
③ 入場者・参加者 総数							
④ その他の実績							
⑤ 予算・決算		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(千円)
	予算	※各事業費の予算内（広報費）で対応					
	決算						
⑥ 広報の実績及び 効果・課題	文化芸術イベント等への関心を高め、集客の効果につなげるため、今後も効果的な広報媒体の活用を検討していく必要がある。						
総合評価 (いずれかに○)	A：目標達成見込み B ：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい						
総合評価の基準	文化芸術への関心が低い人にも興味を持ってもらうような、魅力的な広報を検討していく必要がある。						
⑦ 今後の改善点、 次年度への課題	幅広い世代へ情報を届けるための、SNSなど多様な媒体の活用						